

フラワータウン市民センター移転関連補正予算案、再び否決

フラワータウン市民センターを新商業施設内へ移転する計画に関連した一般会計補正予算案が、9月定例会で否決された議案内容を修正の上、再提出されました。採決の結果、賛成少数で再び否決されました。

11/27 本会議(第1日)

議案第104号「令和7年度一般会計補正予算案(第7号)」が追加提出され、市長提案理由説明が行われました。フラワータウン市民センターを新商業施設内へ移転する計画に関連する議案で、9月定例会における否決を受け、移転計画を一部修正の上、再提出されたものです。中田議員・長尾議員・今北議員より、議案に対する総括質疑が行われた後、予算決算常任委員会へ付託されました。

議案第104号 令和7年度一般会計補正予算(第7号)の内容

フラワータウンセンター地区に新たな魅力を創出するため、イオンリテール(株)が進める新商業施設の整備にあわせて市民センター機能を有する新公共施設を整備するもの

フラワータウン市民センター移転計画修正案の内容

- 多世代交流館子育て交流ひろばの現状維持
- ミニホール機能の具備に伴う費用増(約5,000万円)
- 跡地活用のための調査費は上程しない など

総括質疑の内容

- 議** 住民へ向けた財政効果に関する発言の変化について伺う。(さんだの未来 中田哲)
- 市** 多くの財政効果を求めなければならぬとの思いから、答弁ではプラスの効果があると断定し、偏った情報が伝わったこととお詫びする。一方で、アンケートでは利便性向上やフラワータウン活性化の期待が多く、財政効果だけでなくまちの将来像を踏まえての回答と受け止めている。フラワータウンをより良くしたいという思いで検討してきたもので、意見を踏まえ今後の進め方に丁寧に反映させていく。(田村市長)
- 議** 商業施設の開業時期に及ぼす影響への考えと、9月定例会での否決以降、修正案に対する市民意見交換会を開催しなかったことについて伺う。(日本共産党三田市議団 長尾明憲)
- 市** 令和9年春の開業時期にあわせた移転を前提に事業者と調整を進めてきており、全体の開業時期への影響はあると考えるが明確に把握していない。また、アンケートや説明会で把握した市民ニーズや機能像を軸に、具体的な施設の利活用や運営方法について利用団体へのヒアリングを通じ、改めて意見を把握していく。(田村市長)
- 議** 9月定例会で議案第82号が議会の大きな決断で否決となったことの重みについて伺う。(創志会 今北義明)
- 市** イオンリテール(株)の出店計画や市民生活への影響を考慮するあまり、否決当日に10月臨時会に再提案する意向表明と受け取られる発言をしたことや、市民意見の精査・見直しのため10月臨時会での提案を見送り、会期の調整等で迷惑をかけたことは深く反省している。今後は議会や市民への丁寧な説明を含め、フラワータウン再生に向け改めて誠心誠意、尽くしていく。(田村市長)

12/2 予算決算常任委員会(全体会)での参考人招致に係る審査の概要

委=委員 参=参考人

- イオンリテール(株)開発部長の中本太郎氏を参考人として招致し、参考人による意見陳述の後、質疑を行いました。
- 委** 否決された場合の開業への影響は。
- 参** 令和5年8月に社内の機関決定で(株)北摂コミュニティ開発センターとの土地賃貸借契約の決議を受け、予約契約を締結しているが、行政施設を3階に配置する経営計画の前提が覆るといった自社決議は白紙となり、出店の可否を含め再度決議が必要となる。
- 委** (株)北摂コミュニティ開発センターとの賃貸借契約の期間は。
- 参** 民間同士の契約であり詳細はいえないが、長期契約が前提の予約契約を締結しており、少なくとも今回の建物の耐用年数である30年間は営業を続ける覚悟である。
- 委** いったん白紙となり、出店の可否や店舗の規模縮小が検討される場合の開業の遅れは。
- 参** 設計変更や店舗の規模縮小について、社内の議論などのプロセスを経る必要があるため、仮に出店を決断する場合でも一定期間遅れることは避けられない。
- 委** フラワータウンの現状と課題への見解は。また、出店に際しどのような特色を打ち出し、課題解決に寄与するのか。
- 参** 課題として、高齢化が進んでいるものの都市部への通勤圏にあり駅近という立地を生かし、今後も成長できるエリアと捉えており、大きな投資を決断した。また、1・2階部分に近隣住民が頻りに利用できる店舗づくりを目指し、「そよら」という子育て世代を中心に集える施設の開発を進めているが、住民が集まり会議や交流を行う機能は自社のみでは担えず、行政施設と連携し、地域の利便性を高める計画を提案した。
- 委** 防災拠点機能について、どのような協議をしているのか。
- 参** 自社の店舗機能として、防災時に商品を提供し、場をしのぐ役割を担える。また、3階部分に直接アクセスできる階段を設ける設計を進めており、建物の所有者として、店舗と行政施設が一体となり防災機能を発揮できるよう、設計・議論を進めている。

12/3 予算決算常任委員会(生活地域分科会)での質疑

委=委員 市=市職員

- 委** 現市民センターの維持に要する費用と比較して30年で約1億5,000万円、年間約3,000万円の増と財政負担が懸念される。
- 市** 施設財産の維持より賃借契約による施設整備の方が、長期的負担軽減が可能である。また、商業施設と市民センターの利用による相乗効果やまちの活性化が期待できる。
- 委** 公共施設の縮充の考え方と合っているのか。
- 市** 公共施設全体における縮充は長期的に実施すべきであるが、地域住民の意見を踏まえ面積は大幅に減らさない規模とし、多世代交流館を維持する必要があると判断した。
- 委** 内装等へのさらなる市民意見の反映と周知の必要性は。
- 市** 引き続き市民の声の聞き取りと丁寧な説明の機会を設けるとともに、可能な限り意見を取り入れる。
- 委** ミニホールの可動式舞台の大きさと収容人数は。
- 市** 舞台は奥行3メートル、横幅9メートル、収容人数100人程度を想定している。
- 委** 現市民センターのホールは中学生の発表会など全市的な利用もあり、学校関係者を含む地域住民以外の意向調査も必要では。
- 市** 発表会等にはミニホールが活用できる。地域住民へのアンケートと説明会を第一に実施したが、登録団体や利用団体への個別ヒアリングも実施中である。

- 委** 多世代交流館の移転は見送りながらも、子ども向け大型遊具を設置するのか。
- 市** 気候変動に対応した屋内施設を求める市民意見を踏まえ、多世代交流館の子育て交流ひろばは未就学児、新施設は小学生以上と対象を機能分担する。
- 委** 9月定例会における議案否決という議会判断の重みの受け止めについて、現市民センター存続で周辺整備を行う方向で検討したのか。
- 市** 議決の重みは真摯に受け止め、市民意見の聴取と説明に取り組んできた。移転見送りによる新商業施設出店の白紙や国交付金の調整が困難となることなどを総合的に判断し、新公共施設の提案に至った。
- 委** 提案や意思決定に関し、イオンリテール(株)への正式な申し入れの前に議会に報告しなかった理由は。
- 市** 結果として申し入れ後の報告となったが、議会の意見を聞きながら進める姿勢が変わりなく、今後も早期の議会報告及び協議に努める。



12/4 予算決算常任委員会(全体会)での審査

自由討議の後に討論・採決を行った結果、可否同数となり、委員長裁決を行った結果、賛成少数で原案否決となりました。

反対討論

- フラワータウン再生をかけた大規模な事業推進において、まずは市民や議会に問い、合意形成を図るべきであった。また、財政負担の懸念もあり、税金の効果的な活用の判断が必要である。
- 否決されれば計画が白紙となる状態を招いたのは当局の調整不足である。また、計画は新市民センターへの移転にとどまり周辺施設の活用や地域活性化への連携が不十分で、複合化だけが目的化している印象を受ける。
- 9月定例会での否決後に現市民センターの存続を検討せず、複合化ありきで進めた姿勢は議会及び市民を軽視していると言わざるを得ない。また、市民の声の集約・反映が不十分で、ホール機能や防災対応の課題もある。さらに、追加負担の懸念もあり費用対効果の面からも合理性に欠け、現市民センターを存続した形で、フラワータウン再生を目指すべき。
- 今回の提案内容に関する市民の声の聴取・反映がされていない状況では、市民の大半が望む内容とはいえない。また、財政面においても赤字になることが明らかであり、現市民センターの存続を検討すべき。

賛成討論

- 否決となれば、出店の可否を含めた白紙やさらなる開業時期の遅延が生じる可能性があり、これ以上の計画遅延は望ましくない。
- 現市民センターを残しても、にぎわい創出や人口流入などの本質的な課題は解決しない。施設整備費用だけでなく総合的な視点でコストを評価し、複合化によるまちづくりへの貢献度も考慮すべき。
- 参考人の陳述では、当局とイオンリテール(株)が伴走するパートナーであり、市民とともにフラワータウン再生を考える仲間としての姿勢を誠実に感じた。開業時期の遅れや空き地化は市民の望む姿ではなく、令和9年夏の開業に向け協力することが市民の利益につながる。
- 利便性の向上とにぎわいを生み出し、地域活性化を図るという目的はフラワータウン再生ビジョンとも一致している。アンケートからも早期の商業施設開業が望まれており、計画実現が住民の不安軽減や地域活力につながる。フラワータウン再生のための未来への投資であり、出店計画の延期や白紙を防ぎ、判断を先送りすべきではない。

12/23 本会議(第5日)の経過

幸田予算決算常任委員会委員長より、委員会での審査経過と結果報告が行われました。その後、長谷川議員・村手議員・山崎議員による賛成討論及び長尾議員・橋本議員・中田議員による反対討論において、予算決算常任委員会全体会での討論と同一内容の意見表明がなされました。採決を行った結果、賛成10・反対11の賛成少数により否決となりました。(各議員の賛否は4ページをご覧ください。)